

新潟県内の産業振興に尽力

おおたき

でんじゅうろう

大瀧 傳十郎 (1861-1944)

少年期から漢学を学ぶ

大瀧傳十郎は、1861年（文久元）梶村（現・吉川区梶）に甚十郎の次男、幼名文一郎として生まれました。1877年（明治10）高田在住の儒者井部健斎について漢学を、さらに上京して小石川の二松学舎で漢籍を学びましたが、1880年（明治13）長男の死去により帰郷して傳十郎を襲名しました。

政治家として活躍する

傳十郎は、1886年（明治19）に梶村ほか23か村の戸長となり、1890年（明治23）の村会議員を経て、県会議員に当選、1892年（明治25）には第11代県会議長に就任しました。その後、1898年（明治31）には衆議院議員に当選し活躍しましたが、1900年（明治33）父の死去による家督相続のため中央政界から退きました。

郷土の発展に尽力する

帰郷した傳十郎は、1910年（明治43）には自分の敷地2000坪を提供して、旭尋常高等小学校の統合を行い、教育施設の充実に努めました。また、1917年（大正6）『旭郷土誌』の編さんを開始、翌年には525円を寄付して旭村奨学会を創るなど教育向上に尽くしました。

産業振興では、1921年（大正10）旭信用組合長に就任し、長期にわたり村の経済金融面の安定と発展に貢献しました。

旭村の耕地整理に取り組む

1931年（昭和6）傳十郎は旭耕地整理組合の組合長となると、私財数万円を投じて旭村全域の耕地整理に取り組みました。この事業は1939年（昭和14）4月に完了し、村民はこの偉大な事業に感謝して、彼の邸内に胸像を建立しました。

1944年（昭和19）11月、傳十郎は多くの人々に惜しまれて83歳で亡くなりました。

彼の功績は鉄道、バスなどの交通機関の敷設、新潟県農工銀行、成資銀行など金融機関への参画を通して、県内全域の産業経済の発展に寄与するものでした。